

# 一般国道2号 岩国・大竹道路

## トンネル技術検討委員会

### －第2回－

1. 追加調査について（盛土断面の追加箇所調査提案）・・・1

令和5年2月24日

# 1.追加調査について

## 1.1.追加調査について

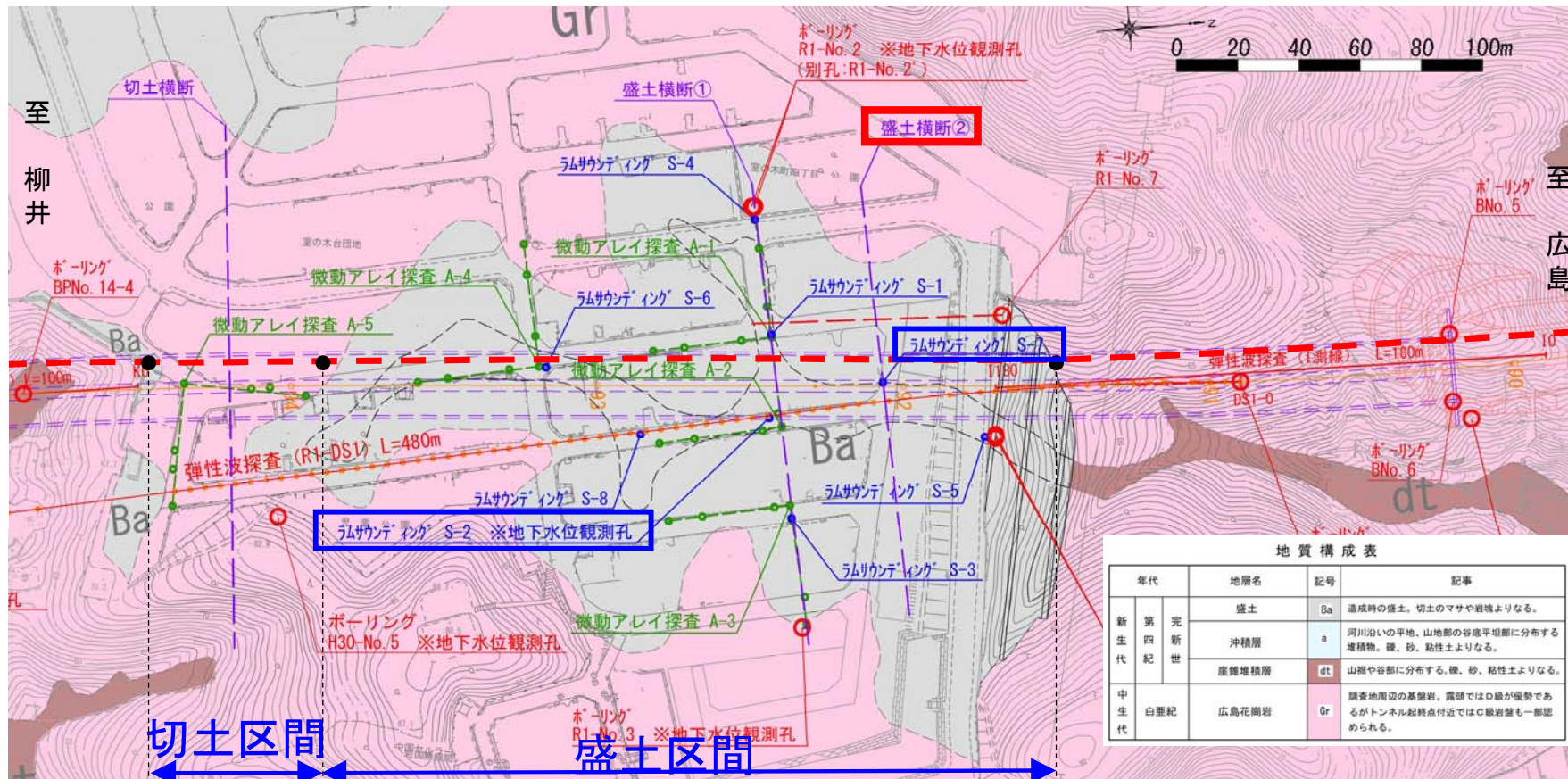
- ・過年度調査（ラムサウンディングS-7、旧地形線、弾性波探査）に基づく盛土最厚部想定箇所の妥当性について確認する。
- ・盛土最厚部における地質横断の地表面沈下予測を行うため追加調査内容の妥当性について確認する。

### (1) 既往調査に基づく評価

当初はラムサウンディングS-2箇所を盛土最厚部と想定していたが、ラムサウンディングS-7箇所が盛土最厚部と判明した。弾性波探査およびラムサウンディング（S-7）の調査結果から、図-1.1に示すSTANo. 92+6. 8の地点が盛土最厚部と想定される。地表面沈下影響として、盛土最厚部での評価が望ましいため、地質確認調査および地下水位確認調査について計画提案を行う。

当初盛土最厚部想定箇所  
盛土横断①

調査後盛土最厚部想定箇所  
盛土横断②



年代	地層名	記号	記事
新第四紀	盛土	Ba	遺成時の盛土。切土のマサや岩塊よりなる。
	沖積層	a	河川沿いの平地、山地部の谷底平坦部に分布する堆積物。礫、砂、粘性土よりなる。
	崖線堆積層	dt	山麓や谷部に分布する。礫、砂、粘性土よりなる。
中生白亜紀	広島花崗岩	Gr	調査地周辺の基盤岩。露頭ではD層が優勢であるがトンネル掘削付近ではD層岩盤も一部認められる。

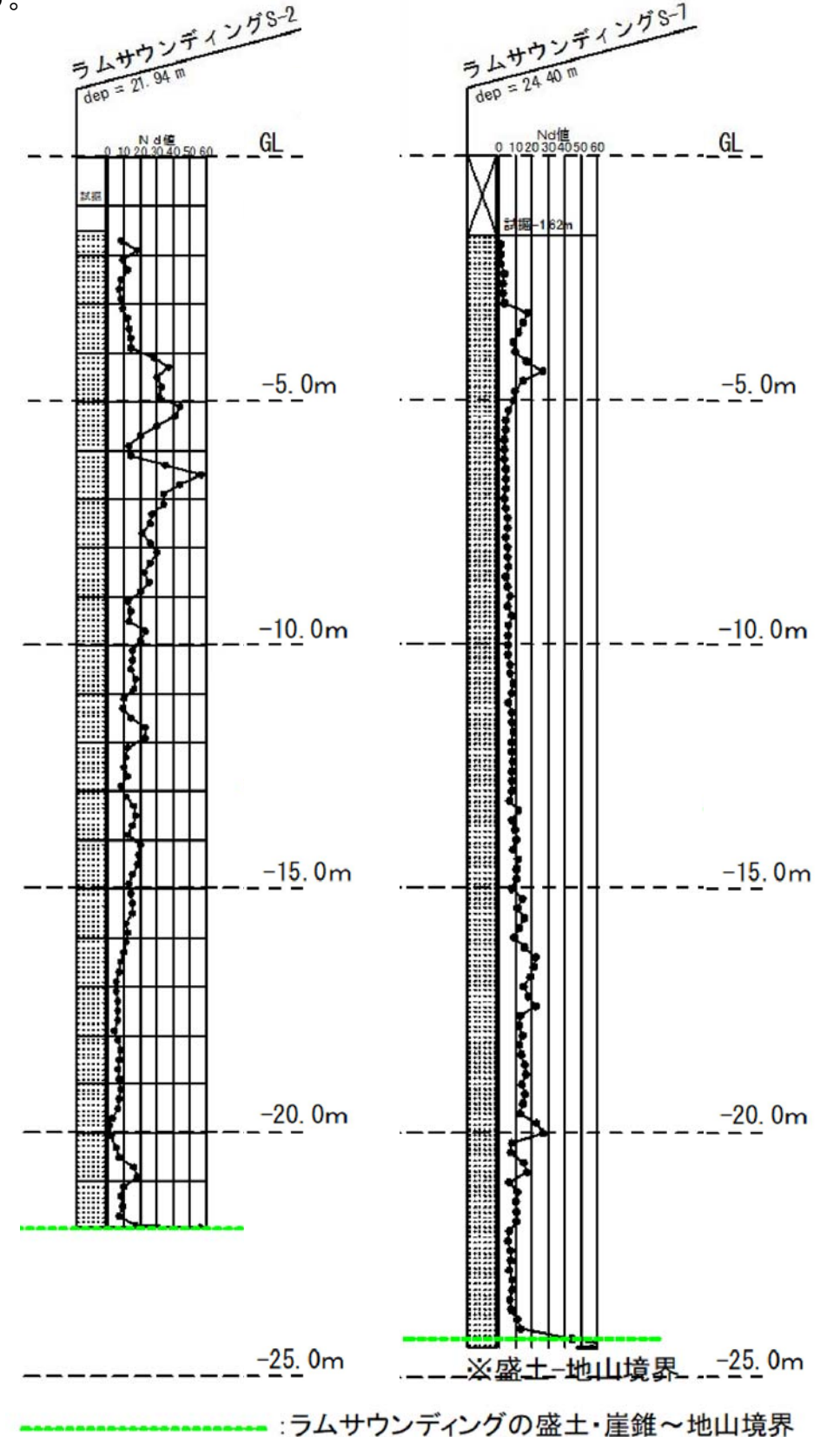
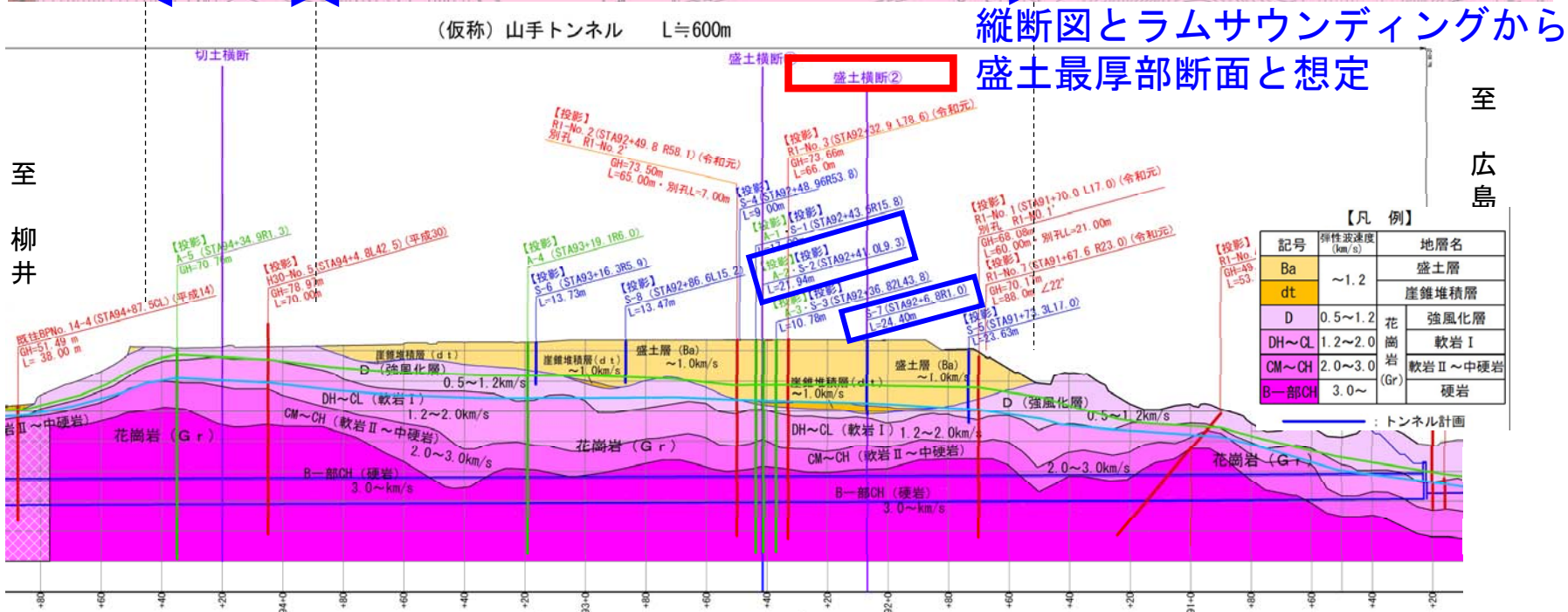


図-1.1 地質縦断図



# 1.追加調査について

## 1.1.追加調査について

### (2) 追加調査の目的

盛土最厚部の地質断面については、過年度調査（ラムサウンディングS-7、旧地形線、弾性波探査）に基づき、地質断面などを推定しているが、ラムサウンディング以外は推定となり、センター付近から離れるほど精度が低下するため、地質断面の精度向上が必要である。また、地下水位の分布については、過年度調査から盛土最厚部断面においては、直接把握できておらず、トンネル施工時の影響確認のために確認が必要である。

以上より、追加調査の目的と調査項目について表-1.1に示す。

表-1.1 追加調査目的と調査項目

追加調査目的	追加調査項目
<ul style="list-style-type: none"> <li>盛土最厚部断面の地質分布の精度向上</li> <li>地下水位の分布状況の把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>盛土最厚部でのボーリング調査、盛土分布確認のラムサウンディング試験</li> <li>ボーリング調査（地下水観測孔）</li> </ul>

### (3) 調査内容

#### 1) ボーリング調査：1箇所（地下水観測孔）

**追加ボーリング**；盛土最厚部箇所の地質状況確認および地下水観測孔を設置する。（Φ66mm、L=30m）※試料採取については別孔Φ116mm、L=25mとする。

盛土物性値（代表N値、単位体積重量、粘着力、せん断抵抗角、変形係数、透水係数、圧密試験）の確認のため原位置試験及び室内試験を実施する。

崖錐堆積物物性値（代表N値、単位体積重量、粘着力、せん断抵抗角、変形係数、透水係数、圧密試験）の確認のため原位置試験及び室内試験を実施する。

#### 2) ラムサウンディング試験：3箇所

追加ラムサウンディング-1（L=10m）、追加ラムサウンディング-2（L=24m）、追加ラムサウンディング-3（L=12m）；盛土最厚部箇所の横断面の地質状況確認および地下水位の把握を目的とする。

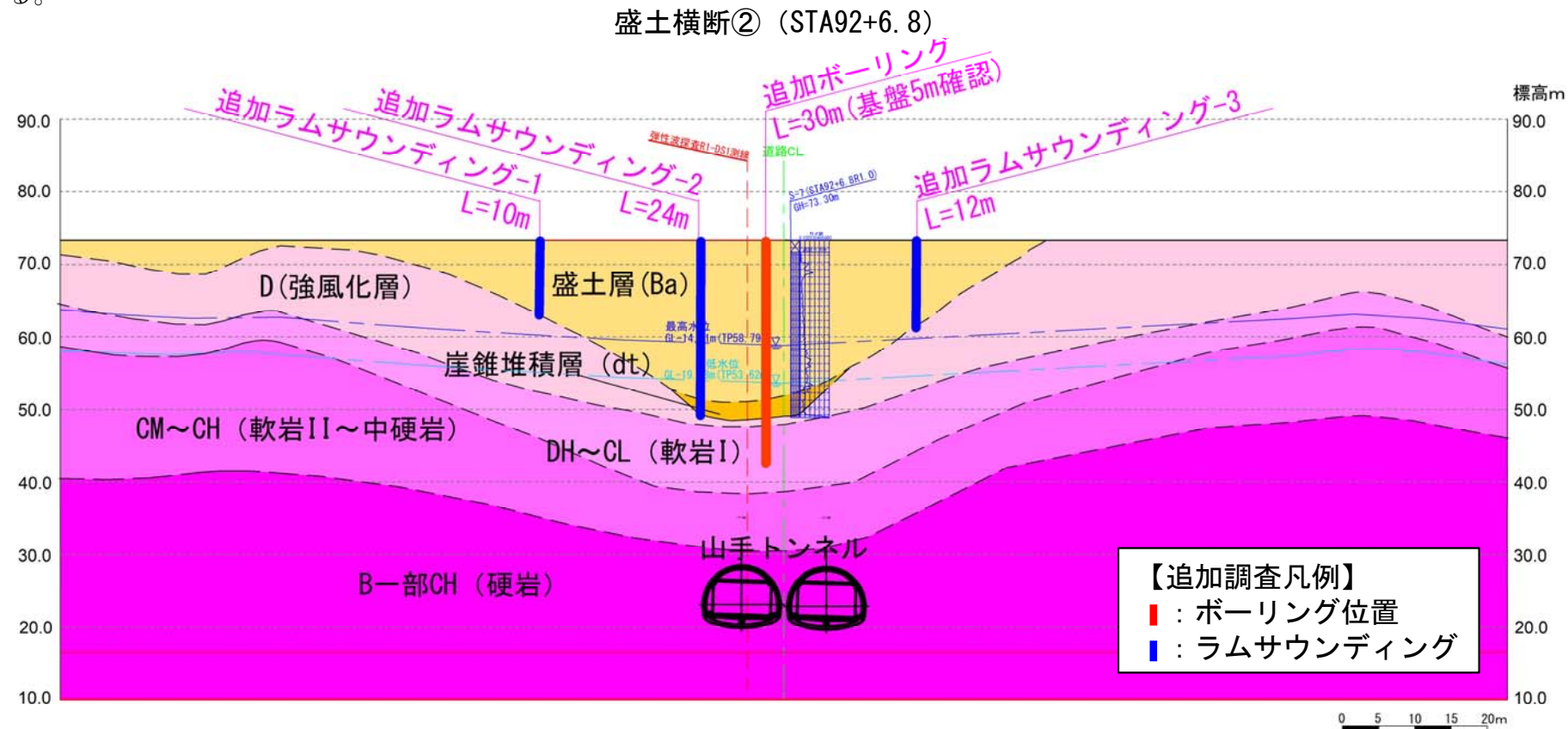


図-1.2 追加調査箇所横断面図（STA NO. 92+6.8） ※地層横断については推定である。



